

A Latent Class Analysis of Barriers to Exercise and Sports among Japanese Female University Students

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2024-11-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田中, 愛理 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003738

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 117 号

A Latent Class Analysis of Barriers to Exercise and Sports among Japanese Female University Students

(日本の女子大学生における運動とスポーツの障壁に関する潜在クラス分析)

田中 愛理 (たなか あいり)

博士 (スポーツ健康科学)

論文内容の要旨

大学生の運動実施の阻害要因として個人の内面的な動機や社会的・環境的な要因が認識されている。障壁を解消するためには、より個人的かつ複合的な知見を得る必要がある。本研究では、女子大学生を対象に運動実施の障壁をもとに潜在クラス分析を実施しクラスを特定すること、各クラス間の運動実施状況、生活状況、および運動・スポーツに対する考え方やイメージなど認識・思考の関係を明らかにすることを目的とした。

本調査は女子大学生 782 名を対象に無記名自己記入式の Web アンケートを実施した。質問項目は先行研究を参考に設定し、基本属性、潜在クラス分析を行うため運動・スポーツを実施していない理由、クラス間の特性を確認するため生活状況、運動・スポーツの実施状況、運動・スポーツの認識に関する項目を調査した。分析方法は、運動を実施していない理由 17 項目を指示変数として潜在クラス分析を行い、応答確率ならびに特化係数を算出した。各クラスの運動実施状況、生活状況、および運動・スポーツに対する考え方やイメージなど認識の差異を比較するため χ^2 検定および残差分析を行った。いずれの場合も有意水準は 5% 未満とした。

調査の結果、運動をしない理由及び運動に対する認識の項目に欠損値を含む回答を除いた 623 名 (平均年齢 18.45±0.62 歳) を分析対象とした。潜在クラス分析の結果、BIC は 4 クラスモデルで最小 (BIC=12009.8279) となった。また各クラスの運動実施状況、生活状況、および運動・スポーツに対する考え方やイメージなどの認識を χ^2 検定によって分析し、運動・スポーツに対する考え方やイメージなどの認識 17 項目、生活状況 2 項目、運動実施状況 4 項目で有意差が認められた。

潜在クラス分析により 4 つのクラスが特定された。阻害要因に関する各クラスの特徴は以下の通りである。クラス 1: 障壁に関する項目をほとんど認知していないグループ、クラス 2: 自身の周辺環境に影響されやすいグループ、クラス 3: 運動・スポーツに対する嫌悪感を認知しているグループ、クラス 4: 運動・スポーツに対する嫌悪感に加えて運動・スポーツに関する情報への接触機会が少ないと認知されているグループであった。また χ^2 検定の結果から、認知された障壁の種類によって生活状況や運動実施状況、運動・スポーツに対する考え方やイメージ等が異なることが示された。定期的な運動を促すために、阻害要因によってクラスを分類する有用性が示された。